



<https://www.nmc.keio.ac.jp>



Keio University

Faculty of Nursing and Medical Care

慶應義塾大学 看護医療学部

2021

看護の学びを広げ、 あなたの未来を広げる、 慶應義塾

さまざまなライフスタイルが共存する社会の中で、
人々が健康に暮らすためには何が必要か、
看護の立場からどのような貢献ができるか。
それらを追究し、実践するためには、
看護の対象である人間とその環境を理解し、
看護学にとどまらず、幅広く学ぶことが重要です。
慶應義塾大学看護医療学部は、
総合大学として、医療系三学部を擁する大学として、
いままでの保健・医療・福祉の枠を越えて活躍できる、
先導者の育成をめざしています。

写真：ピンングセレモニー

看護の象徴として、ピンバッジを与えるセレモニーです。
学生は看護医療の分野で先導者となるべく、
将来の目標をステートメントとして発表します。

学びと未来へ、
慶應義塾の
オリジナリティ

総合大学の強み > p.4

湘南藤沢キャンパス(SFC)の総合政策学部・環境情報学部の
科目をはじめ、興味・関心に応じて他学部の科目を履修。大学
病院のある信濃町キャンパスで臨地実習を行います。

三学部合同教育 > p.11

医療系の医学部・看護医療学部・薬学部が合同で実施するプロ
グラム。「グループアプローチによる患者中心の医療実践」に貢
献することを目的に、三学部の学生が共に学びます。

多彩な進路 > p.14

病院や行政機関に就職する人。一般企業で活躍する人。起業
にチャレンジする人。さらなる学びを志して進学する人。多彩な
進路は、総合大学で培った能力とスピリットの表れです。

～学部長からのメッセージ～

多様化する課題に立ち向かうチャレンジを

看護医療学部は、2001年に慶應義塾大学の9番目の学部として開設され、まもなく20年目を迎えますが、その礎として慶應看護の長い歴史があります。慶應義塾大学医学部創設の師である北里柴三郎博士は、「治療術」の進歩だけではなく「看護術」の進歩がなければ効果は得られないと説き、医学科創設の翌年である1918年に看護婦養成所を設置しています。2018年には慶應看護100年という節目を迎え、その実践と発展を支えてきた多くの先輩諸氏と現在学部で学ぶ学生が一堂に会し、積み重ねられてきた「実学」と「独立自尊」の精神に触れ、これから目指すべき道に想いを馳せることができました。

「生命・人間尊重の精神の涵養」「看護の判断能力、問題解決能力、実践力の養成」を目標とした看護医療学部の教育では、幅広い知識の習得と共に、多彩な体験に基づく思考の発展や人間的成長を目指します。そのために、数々の魅力ある教育プログラム等が準備されています。医学部・看護医療学部・薬学部の医療系三学部による合同教育、学部独自の海外研修プログラム、学生の関心に合わせた海外活動を支援する奨学金制度、そして総合大学の特徴を生かした豊富な教授陣と幅広い科目履修等が挙げられます。個々の関心や主体性を尊重し、きめ細やかな個別指導を可能とする少人数教育を組み入れ、学生からも高い満足度が得られています。

一方、現代日本に目を向けると、超高齢社会、少子化、そして気候の変動により拍車がかかっている災害大国でもあり、健康に関連する課題は複雑に多様化してきています。柔軟性を持って様々な課題に立ち向かい、新たなケアを創出し、高い倫理観を持ち、人々が健やかに安寧に暮らせる社会に貢献し得る人材が求められます。それは、わが国だけではなく、世界共通の願いです。

慶應義塾の信条とする「自我作古(じがさっこ)」(われよりいにしえをなす)の気概を持って、チャレンジして欲しいと思います。



慶應義塾大学看護医療学部長

武田 祐子



4 領域・16 分野で構成された、4 年間のカリキュラム

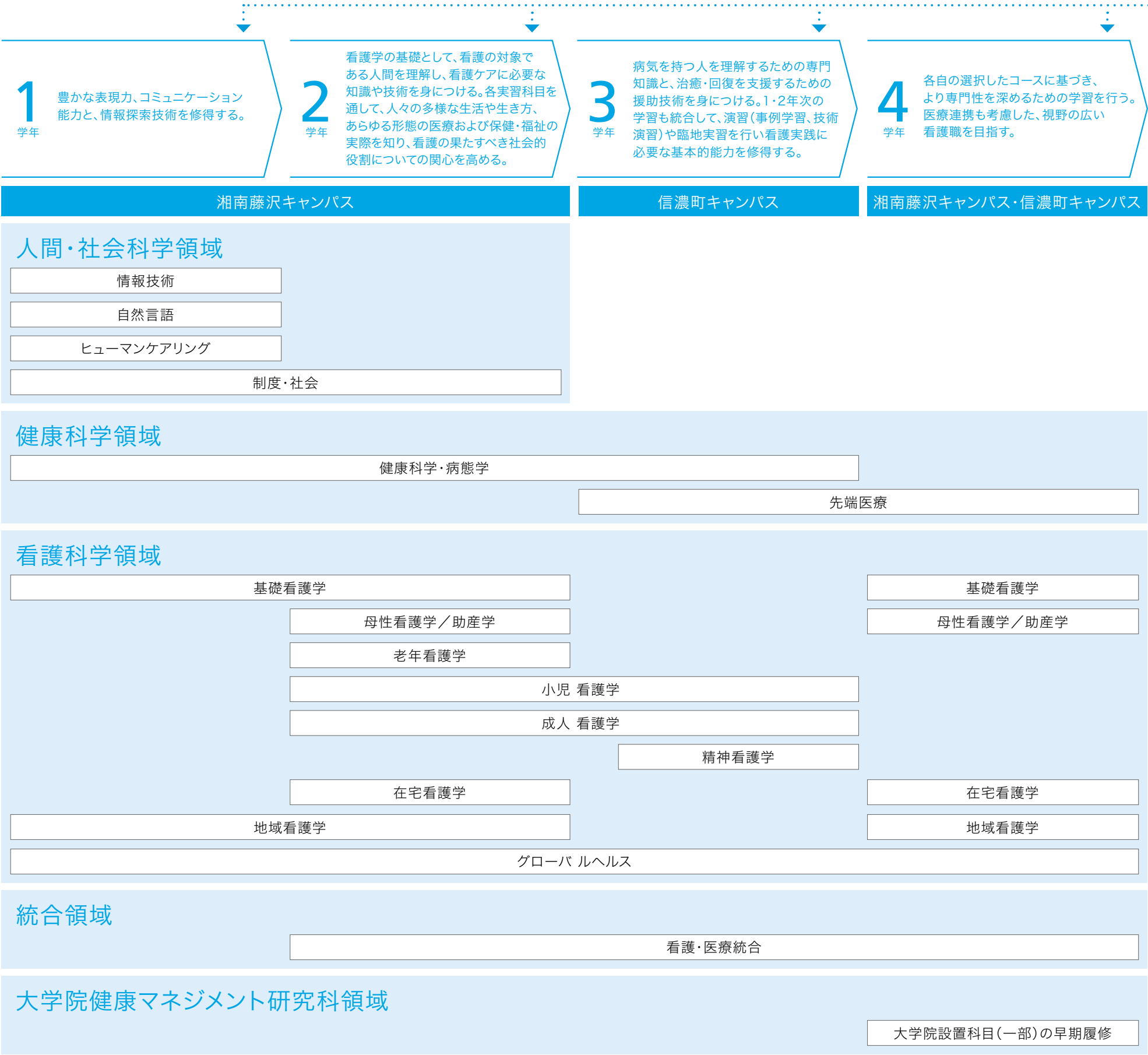
総合大学の利点を活かした学び

看護医療学部では、総合大学であるという利点を活かし、一人ひとりの興味・関心に応じて他学部の科目を履修することができます。特に、メインキャンパスとなる湘南藤沢キャンパス(SFC)では、総合政策学部や環境情報学部の科目を履修する学生が多く、学部の枠を越えてお互いに刺激し合いながら、視野を広げています。講義・演習科目においては、その専門性を高めるために、積極的に他学部の教員を招いています。また、慶應義塾大学病院のある信濃町キャンパスで、さまざまな病気の患者さんに対する看護や医療の臨地実習を行うことができるなど、2つのキャンパスで効果的に学べる点も大きなメリットです。



健康マネジメント研究科との5年一貫教育

3 年次までの成績が優秀な学生は、4 年次に大学院(健康マネジメント研究科)の科目の一部を早期履修(先取り)することができます。このことにより、学部・大学院をあわせて5年で修了することもできます(2021 年度より開始)。



さまざまなフィールドでの実習

高い看護能力の修得を目指し、実習にも重きを置いています。

- 1 学年：大学病院での見学実習
- 2 学年：学内演習で身につけた技術を応用し、大学病院や外部の高齢者施設などで実習
- 3 学年：病気で入院中の患者とその家族に対する看護を学ぶための、大学病院や外部施設(緩和ケア病棟・精神科病院など)での実習
- 4 学年：在宅療養中の人々に対する看護を学ぶための、訪問看護ステーションなどでの実習
- 保健師選択コース： >p.14 市の保健センター、企業の健康管理部門での実習
- 助産師選択コース： >p.14 一般病院・大学病院の産科病棟／外来、助産院などでの実習



自由な発想を育てる少人数制教育

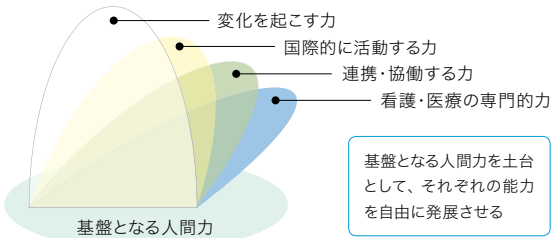
語学や情報技術科目はもちろん、専門科目において、ディスカッションやグループワークを取り入れた少人数制教育を実施していることも特徴の一つです。特に演習や実習では、1 グループを10 名程度で構成し、各グループを1 ～ 2 名の教員が担当。この方法を採用することで、学生が主体的に授業に参加できる環境を作り、教員は全体の学習がスムーズに進むように関わりながら、学生一人ひとりに対してきめ細かな指導を行っています。また、自由な発想による意見交換が活発に行われるため、多様なものの見方や考え方に触れることができます。

*各領域の具体的な設置科目はp.7 参照(2020 年4 月1 日現在)

看護医療学部における3つのポリシー

ディプロマポリシー（卒業の認定に関する方針）

学則で定める卒業に必要な単位数を取得することが、
学士号授与の要件となります。
また、卒業までに以下の5つの力を身につけていることを重視します。



基盤となる人間力

基本倫理としての生命・人間尊重の精神とともに、人間的に調和の取れた人格を備え、社会人として成長することができる力。ならびに、幅広く社会への関心をもち、人々と出会い交流し、相互作用を起こすことができる力を身につけていること。

連携・協働する力

高度化された医療に対応する、さまざまな専門職で構成されたチームにおいて、お互いの専門性を最大限に活かしながら、より優れた実践につなげるために行動できる力を身につけていること。

変化を起こす力

看護や医療および社会で起こっている、あるいは起こる可能性のある事象へ関心をもち、そこから問題を発見する批判的な力と、その問題を解決し、既存の枠を変革していく力を身につけていること。

看護・医療の専門的力

これからの社会や、人々の生活を見据え、看護の知識や技術を駆使して新しい看護活動の場を創造し、保健・医療・福祉を先導するための基礎的な力を身につけていること。

国際的に活動する力

国際的な感覚とともに、日本のポジションや役割を的確に捉えることのできる幅広い教養を備え、他の国々の医療専門職と協働できる、柔軟な発想や行動力を含めた基礎的な力を身につけていること。

これら5つの力は、「人間・社会科学領域」、「健康科学領域」、「看護科学領域」、「統合領域」という4つの領域で構成されるカリキュラムを通して学ぶことになります。

授与する学位：学士(看護学)

カリキュラムポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）

カリキュラムは以下の4領域・16分野で構成されています。基礎から実践力まで幅広く養います。

人間・社会科学領域

〈情報技術〉〈自然言語〉〈ヒューマンケアリング〉〈制度・社会〉の4つの分野から成り立っています。人間や社会を、広く深く理解するための科目が配置されています。

看護科学領域

〈基礎看護学〉〈母性看護学／助産学〉〈老年看護学〉〈小児看護学〉〈成人看護学〉〈精神看護学〉〈在宅看護学〉〈地域看護学〉〈グローバルヘルス〉の9つの分野から成り立っています。人間をどうとらえ、人間が生活する環境や人間の健康をどうとらえ、看護をどうとらえるか。さまざまな視点からアプローチできる科目が配置されています。

健康科学領域

〈健康科学・病態学〉〈先端医療〉の2つの分野から成り立っています。心身の健康と、健康が破綻した時の病態、およびその回復過程を理解するための科目が配置されています。

統合領域

〈看護・医療統合〉分野から成り立っています。「人間・社会科学領域」と「健康科学領域」における学びを基盤に、「看護科学領域」の9つの分野全体を見渡し、医療とは何か、看護とは何かを、あらためて問い直すための科目が配置されています。

アドミッションポリシー（入学者の受入れに関する方針）

看護医療学部は、「人の健康と生命、看護への関心をもち、他者の苦痛や悩みを理解しようとする人」、「人を尊重し自分とは異なる立場や文化、価値観を持つ人々とコミュニケーションでき、関係を築いていこうとする人」、「ものごとを多角的にとらえ、そこにある問題に気づき、解決の方向性に対策を考え出し、それを実行する意志と行動力がある人」、「自らやると決めたことをやり遂げようとし、失敗の経験から学び、自身を成長させようとする人」、「自分の行いが人々や社会に役立つことを望み、人々や社会のよりよいあり方を追求しようとする人」を求めています。学部開設の目的である、人々と社会のため看護医療の先導者となる意欲ある人材を、一般選抜、AO入試、第2学年学士編入学試験などの多様な方法により選抜しています。

設置科目一覧

☆保健師選択コース必修 ★助産師選択コース必修					
領域	分野	必修科目		選択科目	
人間・社会科学領域 人間や社会を、広く深く理解するための科目が配置されています。	情報技術	情報とネットワーク 看護情報リテラシー	データサイエンス	マルチメディア表現 保健統計学	ヘルスケア情報学 プログラミング入門Ⅰ プログラミング入門Ⅱ
	自然言語	英語ⅠA 英語ⅠB 英語ⅡA 英語ⅡB		看護医療の英語Ⅰ 看護医療の英語Ⅱ	
	ヒューマンケアリング	心の理解と共有		ストレスマネジメント 心理学 人間生命を考える	コミュニケーションの理論と実際 ボランティア体験 体育2・3
	制度・社会	慶應義塾入門 保健医療福祉行政と政策		社会福祉原論 ☆ 世界の医療・保健制度Ⅰ（比較制度論） 世界の医療・保健制度Ⅱ（海外研修）	医療と経済 法学基礎Ⅰ（法律理解への基礎知識） 法学基礎Ⅱ（法律理解への実践知識）
健康科学領域 心身の健康と、健康が破綻した時の病態、その回復過程を理解するための科目が配置されています。	健康科学・病態学	人体探検 身体の構造と機能 健康論 環境論 病態学入門 急性期病態学総論 急性期病態学各論	慢性期病態学総論 慢性期病態学各論 精神病態学総論 精神病態学各論 終末期病態学 看護のための薬理学	看護のための生物学 看護のための栄養学 看護のための生化学・生理学	
	先端医療			救急医学・救急看護 クリニカルエンジニアリングと医療安全管理	先端医療技術 遺伝と医療
看護科学領域 人間をどうとらえ、人間が生活する環境や人間の健康をどうとらえ、看護をどうとらえるか。さまざまな視点からアプローチできる9つの分野の科目が配置されています。	基礎看護学	今日の看護医療 ライフステージと発達看護論 看護学原論 看護と倫理 生命倫理 生活援助技術	医療支援技術 ヘルスアセスメント 看護過程 基礎看護ケア実践Ⅰ（看護活動の実際） 基礎看護ケア実践Ⅱ（生活援助）	看護理論と実践 看護と哲学	
	母性看護学／助産学	母性発達援助論 母性発達援助実践		性と生殖における健康と権利 ★ 助産理論 ★ 助産診断・技術学Ⅰ（ローリスク妊産婦の診断とケア）★ 助産診断・技術学Ⅱ（ハイリスク妊産婦の診断と治療）★	助産ケア学Ⅰ（ローリスクマタニティケア）★ 助産ケア学Ⅱ（ハイリスクマタニティケア）★ 助産管理 ★ 助産実践 ★
	老年看護学	老年発達援助論 老年発達援助実践			
	小児看護学	小児発達援助論 小児看護学	小児看護学演習 小児看護ケア実践		
	成人看護学	成人発達援助論 成人看護技術演習 急性期看護学 急性期看護学演習 急性期ケア実践	慢性期看護学 慢性期看護学演習 慢性期ケア実践 終末期看護学 終末期看護学演習 終末期ケア実践		
	精神看護学	精神看護学 精神看護学演習	精神ケア実践		
	在宅看護学	在宅看護論 在宅看護技術演習	在宅看護実践	家族看護学	
	地域看護学	地域看護論 地域看護活動論 学校・産業保健		公衆衛生看護活動論 ☆ 公衆衛生看護管理展開論 ☆ 公衆衛生看護実践Ⅰ（行政看護）☆	公衆衛生看護実践Ⅱ（産業看護）☆ ヘルスプロモーション実践 健康教育技法 ☆
	グローバルヘルス	災害と看護		プライマリーヘルスケアと国際保健Ⅰ（開発援助論） プライマリーヘルスケアと国際保健Ⅱ（海外研修） 臨床看護実践（海外研修） 国際看護実践Ⅰ（国内） 国際看護実践Ⅱ（海外）	
	看護・医療統合	看護研究Ⅰ 移行期看護論 医療システムアプローチ実践	ナースिंगマネジメント論 ナースिंगマネジメント実践	看護研究Ⅱ 先端看護学	プロジェクトⅠ（基礎） プロジェクトⅡ（応用）

学問の魅力、みなさんへの期待



社会との密接なつながりが、疫学の魅力であり、難しさでもある

私のバックグラウンドは臨床検査医学を専門とした医師で、現在は生活習慣病の疫学を研究領域にしています。疫学は意外に身近な学問ですが、正しく理解されていない部分も多くあります。それだけに、研究の知見をどのように伝えれば良いか、社会への影響も考えなければなりません。社会と密接につながっているところが魅力であり、難しさでもあると思います。

疫学や生物統計学は、理論的な内容にせざるを得ない部分があり、数値が高いと思われる分野です。そこで、この学問が医学・医療の場でどのように役立っているのか、ニュース記事などの具体例を交え、また、豆知識的な医学の話題を盛り込みながら講義を行うよう心がけています。一方で、この学問を理解する上でどうしても外せない基本概念については必ず

触れるようにしています。慶應義塾の理念でもある「実学」の精神とは、すぐに役立つ学問という意味ではなく、実証的に真理を解明し問題を解決していく科学的な姿勢とされています。実学を実践する基礎となる科学的思考を身につけてほしいと願っています。

講義に関する質問は、講義中・講義後を問わずいつでもOK、メールでの質問も歓迎します。研究室も気軽に覗いてみてください。各教員の研究や大学外での活動を知ると、授業とは違った気づきが得られるのではないかと思います。また、慶應義塾は総合大学なので、医療系の医学部・薬学部はもちろん、様々な学部と横のつながりを持って教育・研究活動を行っていることも強みです。看護医療学部は湘南藤沢と信濃町という2つの異なったキャンパスで学ぶ点がユニークなので、その違いも楽しんでもらえればと思います。

杉山 大典 教授



COLUMN

多彩な考えや価値観に触れる、学部の枠を越えた活動

学生は、勉学の合間をぬってさまざまな活動に積極的に取り組んでいます。看護医療学部を拠点とするサークルで、国内外における保健医療活動や研究発表などを行っている学生。湘南藤沢キャンパス(SFC)の総合政策学部生・環境情報学部生との音楽・スポーツ・ビジネスをはじめとした活動や、医学部生・薬学部生とのボランティア活動に力を入れる学生。さらに、学部の枠を越えて体育会に所属し、早慶戦などで活躍する学生もいます。他学部の学生と交流を深め、多彩な考えや価値観に触れられることも、総合大学である慶應義塾ならではの魅力です。

意欲や適性を多面的に評価する入試制度

看護医療学部は、将来、看護・医療の先導者として人々と社会に貢献できる意欲ある多様な人材を求めています。そこで、一般選抜の他に、AO(アドミッションズ・オフィス)入試、帰国生・留学生を対象とした入試でも新入生を募集しています。これらは、一般の学力試験とは異なる視点や尺度で、入学希望者の多様性を確保しようとするものです。AO入試は、受験生が自由意思で応募でき、書類審査と面接で合格者を決定します。募集はA方式・B方式の2方式があります。帰国生入試、留学生入試は、2021年度入試より新設し、書類審査や面接等で合格者を決定します。詳細は入学センターウェブサイトをご参照ください。

自分の4年間でまとめ上げる「プロジェクト」

プロジェクトは、学びを統合させるための4年次の選択科目で、プロジェクトⅠ(基礎)とⅡ(応用)が設置されています。学びの集大成として、自分の興味や関心に応じてテーマを自由に設定し、研究計画書の作成から、実際の研究、そのまとめまでを行います。また、プロジェクト以外にも多くの選択科目が開講されています。

〈プロジェクト Pick Up〉精神看護プロジェクト

心の健康をテーマに、研究的な思考力を養う

本プロジェクトは、精神疾患を抱えた患者さんへの看護ケアだけでなく、広く人々の心の健康課題に関わる現象を扱っています。学生が主体となり、臨地実習や身近な人々との関わりを通して抱いた疑問や関心を研究テーマに設定し、科学的・系統的に探求した成果を論文としてまとめていきます。

研究をすすめる上で、自分の疑問にとことんこだわり、悩むという体験は大切です。そうした中からでしか、研究の成果は生み出されないと思うからです。そして、疑問への答えを模索することが、身体や心を病む人への看護ケアや人々の心の健康課題の解決にとって、どのような意義があるのかを常に考える視点をもってほしいと思います。同時に、心を病むこと、その人らしく生きることができないというのは、どのような体験なのだろうかと他者に寄り添う視点も大切にしてほしいと思います。

プロジェクトの意義は、研究的な思考力を身につけることにあります。漠然とした疑問を研究の形にして、論理的に、言葉にして、人に伝えるためにはトレーニングが必要です。プロジェクトを通して、こうした力を大学生のうちに身につけることは、卒業後、研究者を目指す上でも、様々な場において看護を実践する上でも不可欠なことだと思います。

福田 紀子 准教授



入学して思うこと、力を入れて取り組んでいること



子どもの居場所づくり活動での 経験を活かして、小児分野の看護を究める

看護において重要なのは、「自分がしたいこと」ではなく、「患者さんが望んでいること」です。そのような看護を提供するためには、相手に寄り添い、気持ちに耳を傾け、信頼関係を築かなくてはなりません。私は、実習で患者さんに、「あなたに話を聞いてもらえて気持ちが楽になって、リハビリを頑張ろうと思った」と声をかけていただいたことがあります。話を聞くくらいしかできず無力感を感じることもあったのですが、それが頑張る原動力の一つになっていたと知り、とても嬉しく思いました。

一方では、「MyOwnPlace(MOP)」という学生団体で子どもの居場所づくり活動をしています。遊んだり、勉強の支援をしたり、一緒に料理をして食べたり。大人との縦の関係でも子供同士の横の関係でもなく、お兄さん・お姉さんという大学生との“ナナメの関係”だからこそできる関わりを日々考えながら、地域に根ざした活動として今後も継続していく予定です。また、「MOP」での経験を活かし、自身の新たな子ども支援として「YourSchool」という病院内での学校づくり活動も始めています。

看護への志を持った学部仲間たちが、目指す領域はさまざまです。将来を見据えて自主的に学び、お互いの夢を尊重するところには、慶應義塾の理念である「独立自尊」を感じます。私は今後、CLS(チャイルド・ライフ・スペシャリスト)や子ども療育支援士の資格取得も視野に入れ、小児分野の看護を究めていきたいと考えています。

4年 山縣 佳奈
(神奈川県・県立小田原高等学校 出身)

患者さんの思いに応えるケアを、 3Dプリンターで形に

私には、看護の道を歩み始めた2つのきっかけがあります。1つは看護体験で、看護師さんの「患者さんとのコミュニケーションの取り方」に感動したこと。もう1つは東日本大震災の被災地支援活動で、「被災者の心のケア」を担当された方にその重要性を教えていただいたことです。私は、これらの体験から心身ともに癒やすことのできる存在を目指したいと思いました。慶應義塾大学の看護医療学部は、私が興味を持ったコミュニケーション学や情報学、災害・防災学、心理学などを含め、幅広い視点から看護について学べる総合大学であることが最大の魅力でした。

この1年間で最も成長したと感じるのは、患者さんの課題やニーズは何か、その課題を解決し、ニーズに応える方法は何か、という一連の考え方ができるようになったことです。例えば観察実習で、手に軽い麻痺が残ったり、食事に介助が必要な方の悲しそうな表情を目にしたときには、3Dプリンターを使って自分の箸で食事ができるケア用品の開発に挑みました。そのような情報技術の学びや実践を通して、看護医療の可能性が多様な方向へ広がっていることを知ることができました。

今、私の興味は、「情報技術を使った患者さんとのコミュニケーション」からさらに大きく広がっています。新しい領域に挑み、前進し続ける志を育む慶應義塾大学の学びの環境を活かしながら、自分の活動の中心となるものを明確化していきたいと思います。

2年 木村 明日香
(東京都・私立桜美林高等学校 出身)



医療系三学部の学びへ

専門の連携へ、三学部合同教育プログラム

慶應義塾は、医療系に医学部・看護医療学部・薬学部を擁する大学として、三学部が互いに連携し、保健・医療を追求できる人材を育成しています。三学部合同教育プログラムは、「グループアプローチによる患者中心の医療実践」に貢献していくことを目的に、医療系三学部の学生が共に学ぶカリキュラムです。共通のテーマのもと、それぞれの立場を尊重しながら、質の高いチーム医療を提供するための専門職連携のあり方を実践的に学びます。1年次に初期教育、2年次に中期教育、4年次に後期教育を実施するほか、ラオスにおける海外研修プログラムも三学部合同で行われています。



世界を実感する学びへ

グローバルな視点で医療を学ぶ、多彩な研修プログラム

春季・夏季休校期間には、看護医療学部独自の国際交流プログラム(選択科目)が6科目用意されています。グローバルな視点で医療に触れることから生まれた問題意識は、未来の看護医療のあり方を模索していく原動力となります。



看護医療の英語Ⅱ	マギル大学(カナダ)を拠点に、医療機関等を見学しながら、看護学と医療英語を実践的に学びます。
世界の医療・保健制度Ⅱ(海外研修)	英国の医療・看護・福祉の制度とケア提供の実際について、講義や医療施設の見学を通して学びます。
国際看護実践Ⅰ(国内研修)	看護医療学部と交流の深いウルチ大学(韓国)、復旦大学(中国)、サフォーク大学(英国)、ワシントン大学(米国)の短期留学生と合同で、グローバルな保健・医療の課題について日本国内で学びます。
国際看護実践Ⅱ(海外研修)	ウルチ大学(韓国)における研修を通して、グローバルな視点から看護コンピテンシーについて学びます。
臨床看護実践(海外研修)	米国における最新の看護実践と看護教育の場を見学し、Patient- and Family- Centered Careの医療について学びます。
プライマリーヘルスケアと国際保健Ⅱ(海外研修) (医療系三学部合同教育プログラム)	ラオスにおける地域の人々の保健状況や健康に対する意識を知るとともに、国際協力についても学び、被援助国と援助国側の関係、開発におけるパートナーシップ、保健分野における持続可能な開発、住民中心の健康づくりの可能性を考えます。

海外での学習や活動を支援する、独自の奨学金

看護医療学部の前身、慶應義塾大学医学科附属看護婦養成所卒業生の寄附による「青田与志子記念慶應義塾大学看護医療学部教育研究奨励基金」から、海外での自主的な学習・研究活動に対する奨学金を支給しています。これまでに奨学生は400名以上おり、世界各国で各自の興味に沿った多様なテーマの研究を行いました。〈2019年度渡航先：米国、イスラエル、インドネシア、カンボジア、ザンビア、シンガポール、タイ、台湾、南アフリカ〉

あなたは、どんな“未来の自分”を思い描いていますか



がん看護の質を高められるリーダーを目指して

私は看護医療学部3年次の臨床実習で、患者さんのQOLが看護により維持され、向上することを学びました。“安心して治療を受けられる環境を提供できる”、“苦痛を最小限に抑えることができる”。そのような専門職としての素晴らしさを実感し、病院で働くことを決意しました。

慶應義塾大学病院で最初に所属した婦人科病棟では、がん患者さんと接する機会が多くありました。そこで知ったのは、患者さんや家族は病氣と闘っているだけではないということです。子宮を摘出することで女性性を失うことや、母親・妻としての役割を十分に果たせないことなど、さまざまな苦悩を抱えながら前を向いて歩んでいます。そのような姿を目の当たりにして、治療に対するケアにとどまらず、一人ひとりの可能性と向き合い、力になり、生きることを支えたいと思うようになりました。

厳しい状況を支援する、自覚と覚悟

慶應義塾大学病院には、自分の関心やキャリアプランに合わせて配属先を相談できる環境があります。私は、がん看護への関心から現在は消化器クラスター病棟に所属し、消化器疾患に対する多様な方法を組み合わせた集学的治療のケア、有害事象のアセスメントやコントロール、治療によって生じた障害のセルフケア支援などを行っています。疾患は厳しい状況であることも多く、患者さんや家族の人生に大き

な影響を与える場合もあります。責任を持って支援するためには、専門職者としての自覚や覚悟が必要だと感じています。

多職種の橋渡しで、連携をサポート

2018年には、「がん看護専門看護師」の資格を取得しました。がんは生涯のうち2人に1人が罹患すると言われ、非常に身近な疾患となっています。今後は実践力を高めることに加え、日々アップデートされる治療を把握し、リーダーシップを発揮しながら、がん看護全体の質を高めることのできる看護師を目指したいと考えています。また、より質の高い医療を提供するためには、それぞれの専門性を最大限に活かす多職種連携が重要です。さまざまな職種の橋渡しの役割もしっかりと担い、円滑な連携をサポートしていきたいと思っています。

一方で、友人や先輩を見ると、看護には病院で働く以外にも素晴らしい道があることを痛感します。慶應義塾大学は、他分野の科目を履修し、他学部の学生と交流することもできる総合大学です。将来の可能性を広げてくれる学びの環境が整っていると思います。

2010年卒業 田邊 沙央里
慶應義塾大学病院 勤務



看護の質向上に寄与できる研究者を目指して

私は、看護医療学部の2年次に基礎看護学実習を行いました。しかし、講義や演習で学んだ技術を活かす機会がなく、自分に何ができるかわからないまま終わってしまい、不全感を抱いていました。そんなタイミングでミルトン・メイヤロフの『ケアの本質』という本を再読し、なぜ不全感を抱いたのか、その答えに行きついたのでした。

大切なのは、患者さんに向き合うこと、関心を持って接すること、相手のニーズを考えること。それまで提供者志向だった自分の価値観が、ガラッと変わりました。

知的好奇心を駆り立てられた、質的研究

学部卒業後は慶應義塾大学病院の小児病棟で4年間の臨床経験を積み、大学院健康マネジメント研究科修士課程に進学しました。現在は後期博士課程に所属しています。大学院への進学には、学部4年次の選択科目「プロジェクト」を履修したことが大きく影響しています。

「プロジェクト」では、質的研究方法の1つであるグラウンデッド・セオリー・アプローチの基礎を教えていただきました。インタビューや観察記録という莫大な文字情報から、他者に伝達可能な概念や理論が生成される過程を間近で見て、純粋に知的好奇心を駆り立てられたことを覚えています。その後、臨床で希少疾患や希少症例の子どもや家族に接する

中で、統計処理では漏れてしまう彼らの体験や声をしっかりと記述し、知識として構築できる質的研究を学び究めたいと考えました。

看護学だからこそ、いくつかのハードル

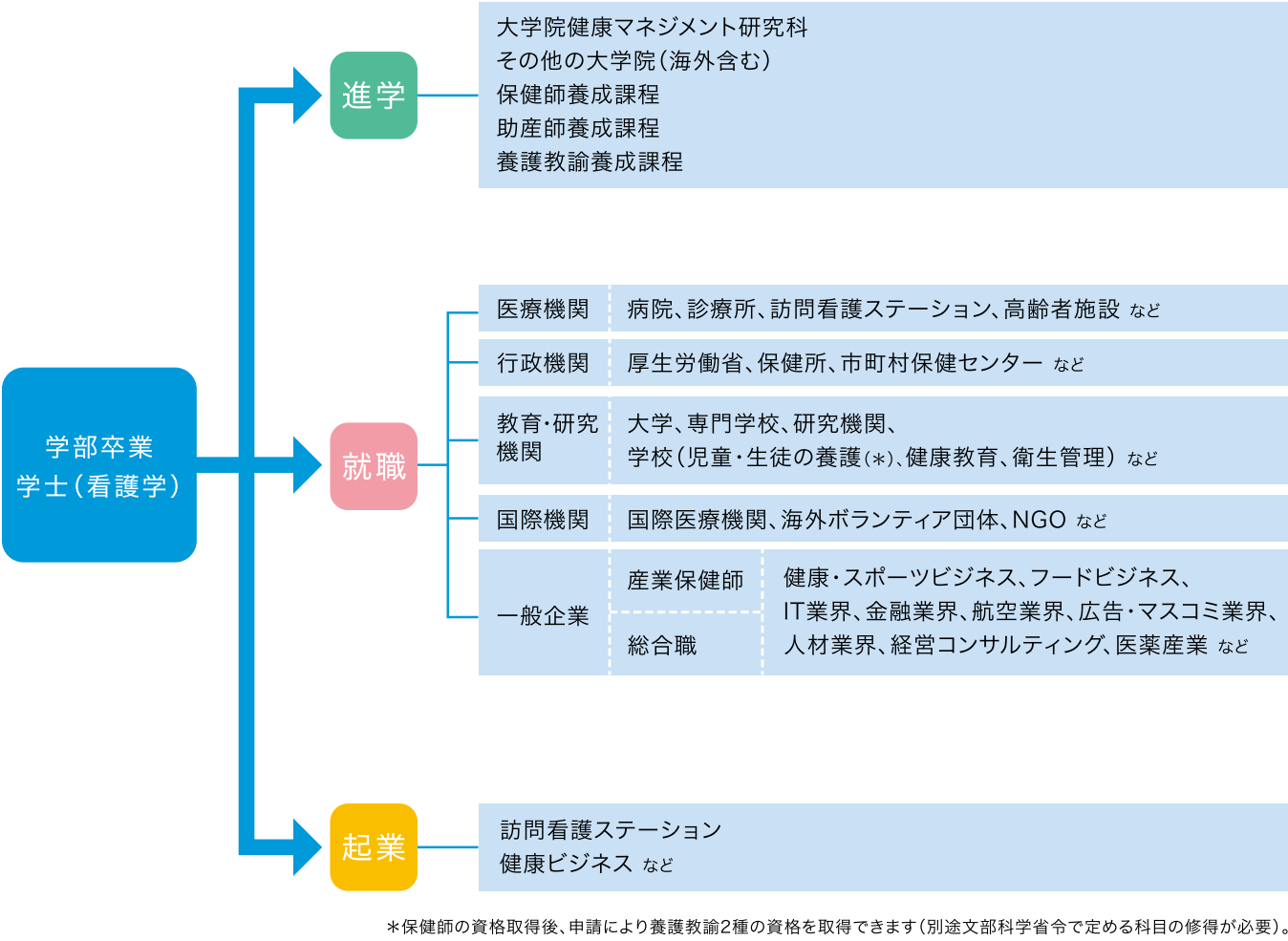
学びの中で気づいたことがあります。根拠に基づいた実践(Evidence-Based Practice: EBP)の必要性が叫ばれる中、医学的根拠と比べ、看護実践の根拠は曖昧であったり、実は科学的根拠が乏しいものが多いということです。根拠を生み出すためには研究が必要です。全人的対象者を理解しようとする看護学だからこそ、捉えようとする現象の複雑さ、実践に還元しやすい研究報告方法の難しさなどいくつかのハードルがあります。しかし、医学的モデルだけでは理解しきれない人間の健康行動を支援するためには、看護学の知識体系を構築していくことが重要だと考えています。

今はまだ自分自身の研究スキルの未熟さを痛感していますが、まずは博士号を取得し、看護の臨床実践の向上に寄与できるような研究者、とりわけて質的研究者になることが将来のビジョンです。

2010年卒業 岩田 真幸
慶應義塾大学 大学院健康マネジメント研究科 後期博士課程 在籍

卒業後の進路

卒業後の進路は、慶應義塾大学病院をはじめとする病院への就職から、産業保健師や自治体への保健師としての就職、IT業界や金融業界などの一般企業への就職まで、実に多彩です。大学院や保健師・助産師養成課程へ進む学生もいます。



慶應義塾 看護100年のあゆみ

慶應義塾は、2018(平成30)年、看護教育が始まってから100年という大きな節目を迎えました。
その長きにわたる歴史を振り返り、年表や写真とともにご紹介します。

- 1858
(安政5) 江戸築地鉄砲洲に福澤諭吉が蘭学塾を開く。慶應義塾の原点。
- 1917
(大正6) 慶應義塾大学医学科を開設。
- 1918
(大正7) 医学科付属看護婦養成所を開設し、第一回生の養成を開始。
- 1920
(大正9) 医学部を開設し、慶應義塾大学病院を開院。
- 1922
(大正11) 医学部付属産婆養成所を開設。
- 1938
(昭和13) 医学部付属看護婦養成所と改称。
- 1944
(昭和19) 医学部付属看護婦産婆養成所と改称。
- 1945
(昭和20) 空襲により医学部・病院施設の6割が焼失。
- 1950
(昭和25) 保健婦助産婦看護婦法により、医学部付属厚生女子学院と改称。
- 1954
(昭和29) 医学部付属准看護婦学院を設置。
- 1960
(昭和35) 看護婦進学コースとして別科課程を設置。
- 1971
(昭和46) 大学病院付属高等看護学院(准看護婦の夜間進学コース)を設置。
- 1977
(昭和52) 学校教育法、施行規則などの一部改正により、厚生女子学院は専修学校となる(看護専門課程本科、進学科一部、進学科二部)。
- 1978
(昭和53) 厚生女子学院創立60周年記念式典を開催。
- 1988
(昭和63) 看護短期大学を開設。
- 2001
(平成13) 湘南藤沢キャンパス(SFC)に看護医療学部を開設。
- 2005
(平成17) 大学院健康マネジメント研究科(修士課程)を開設。
- 2007
(平成19) 大学院健康マネジメント研究科(博士課程)を開設。
- 2011
(平成23) 医療系三学部(医学部・看護医療学部・薬学部)による合同教育を開始。
- 2018
(平成30) 慶應看護100年記念式典を開催。

慶應看護の始まり

慶應義塾における看護教育は、1918(大正7)年に、「慶應義塾大学医学科付属看護婦養成所」が開設されたことに始まります。
54名の第一回生を迎え、看護教育がスタートしました。



整形外科処置実習風景(昭和初期)



ひなまつり(昭和17年)



慶應義塾大学病院全景(昭和初期)

「独立自尊」と「実学」を重んじる看護教育を継承

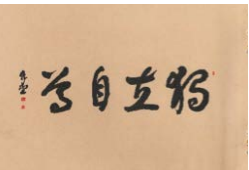
戦争の大きなダメージから立ち直った「看護婦産婆養成所」は、1950(昭和25)年、「厚生女子学院」として新たなスタートを切りました。
看護婦免許は、地方免許から国家免許となりました。



内科診療実習(昭和10年頃)



慶應義塾大学病院外来玄関(昭和10年頃)



福澤諭吉遺墨「独立自尊」



慶應義塾大学病院周辺(昭和30年頃)

21世紀の看護・医療の先導を目指して

21世紀のスタートとともに、看護医療学部が開設されました。
大きく変動する時代の中で、看護・医療の先導的な役割を果たす人材の育成を目指し、幅広い看護教育を展開しています。



看護医療学部実習風景

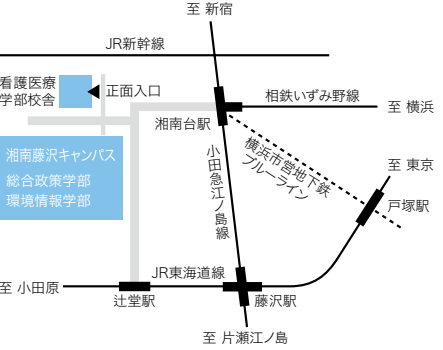


看護医療学部校舎



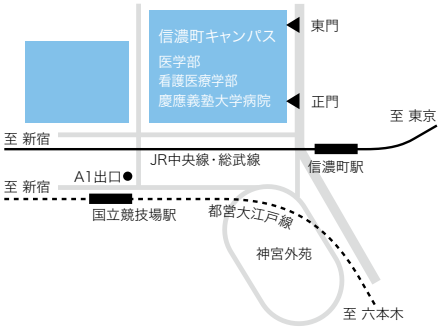
信濃町キャンパス(上：慶應義塾大学病院、左下：孝養舎、右下：図書館)

Campus & Access



湘南藤沢キャンパス(SFC)
〒252-0883 神奈川県藤沢市遠藤4411
湘南藤沢事務室看護医療学部担当
TEL 0466-49-6200

- 湘南台駅(小田急江ノ島線/相鉄いずみ野線/横浜市営地下鉄ブルーライン)西口よりバス[慶応大学]行き約15分
横浜～湘南台＝約30～40分
- 辻堂駅(JR東海道線)北口よりバス[慶応大学]行き約25分
横浜～辻堂＝約25分
- ✈羽田空港～上大岡～湘南台＝約70～75分



信濃町キャンパス
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35
信濃町キャンパス学生課
TEL 03-5363-3662

- 信濃町駅(JR中央線・総武線各駅停車)徒歩1分
新宿～信濃町＝約6分
東京～秋葉原～信濃町＝約20分
- 国立競技場駅(都営地下鉄大江戸線)徒歩5分
新宿～国立競技場＝約4分
- ✈羽田空港～浜松町・大門～国立競技場＝約45～55分



SFCの学びを結ぶ「鴨池急行SoKanKan」

湘南藤沢キャンパス(SFC)における、学部の枠を越えた幅広い学びを支える無料シャトルバス。総合政策学部・環境情報学部ゾーンと看護医療学部ゾーンを結びます。